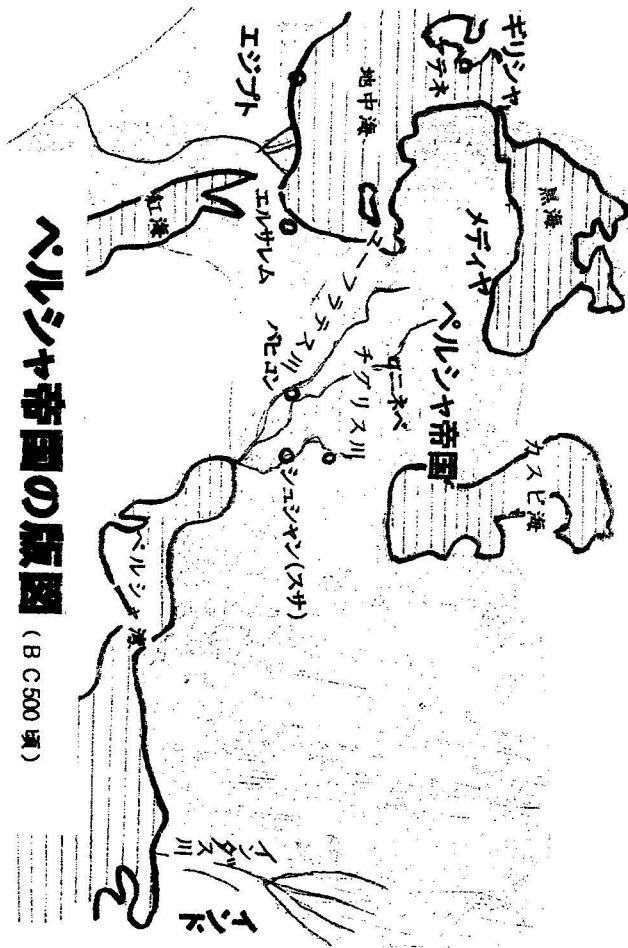


「エステル記」について



1. 特色

- ・ルツ記と共に聖書の中で、女性の名前が書名となった二書の一つ
- ・「神」、「主」の呼称が一つも登場しないが、すべてを支配する確かな存在である点も特徴的

2. 時代と課題

- ・バビロンに代わって世界帝国となったペルシヤが広大な帝国を築いていたころ。
- ・ユダヤ人は、捕囚から解かれて帰還に向かったが、多数は帰還せず、世界各地に離散したままの状態であった。
- ・ペルシヤの首都スサ (シュシヤン) のユダヤ人は殲滅の危機に陥ったが、二人の信仰者が証しのために戦った、その記録がエステル記

3. 私たちにとっての意義: 見えざる御手をもって私たちの歴史を導いておられる神に従って生きること

4. 鍵の聖句: 4:16 「たとい法令にそむいても私は王のところへまいります。私は、死ななければならないのでしたら、死にます。」

アウトライン

■エステル、王妃となる 1:1-2:23

- ・ワシュティが退けられる 1:1-22
- ・エステルが選ばれる 2:1-23

■ユダヤ人の危機 3:1-4:17

- ・ハマンの企み 3:1-4:3
- ・エステルが救出を決断する 4:4-17

■エステルの活動 5:1-8:17

- ・第一回の晩餐 5:1-8
- ・ハマンの計画 5:9-14
- ・モルデカイの栄誉 6:1-14
- ・エステル、ハマンの計画を暴露する 7:1-6
- ・ハマン、処刑される 7:7-8:2
- ・ユダヤ人、自衛を許される 8:3-17

■ユダヤ人の救い 9:1-10:3

- ・ユダヤ人の敵、滅ぼされる 9:1-16
- ・プリム祭の制定 9:17-32
- ・モルデカイの高揚 10:1-3

「エステル記」主な年代 (数字は紀元前)

- 538 バビロン滅亡、ペルシヤ王クロスの解放令
- 536 第一次帰還と神殿建設開始
- 518 エルサレム神殿完成
- 522-486 ペルシヤ王ダリウス
- 492-449 ペルシヤ vs ギリシヤ戦争
 - 490 マラトンの戦い
 - 480 サラミスの海戦
 - 479 プラタイア平原の戦い
- 486-465 アハシュエロス(クセルクセス)王
- 479(?) エステル王妃
- 465-424 アルタシャスタ (アルタクセルクセス) 王
- 444 ネヘミヤによるエルサレム城壁修復